

惑星科学国際教育研究プロジェクト

1. コミュニティへのサービスと人材の育成

ポートアイランド統合研究拠点研究棟3階に入居する惑星科学研究センター（Center for Planetary Science、略称CPS、理学研究科附属）は、惑星科学コミュニティへのサービスと人材の育成を目指す「新しいタイプ」の国際教育研究拠点です。さらに、コミュニティへのサービスと人材の育成を通して惑星科学の堅牢にして豊饒な「基盤」をこの神戸の地に築きたいと考えている研究センターです（<https://www.cps-jp.org>）。

2. CPSの活動

CPSは現在、次のような活動を展開しています。

国際交流事業：毎年、世界の大学院生・若手研究者を対象に国際プラネタリクスルを開催し、国内外の著名講師による惑星科学の最先端講義と国際交流の場を提供しています<写真1>。また、院生・研究者の海外派遣、さらに国際研究集会・ワークショップ等の開催をセットにした



<写真1>国際プラネタリクスル

海外研究者の受け入れ企画を公募し、研究者の国際交流を支援しています。

国内スクール事業と社会交流活動：国内大学院生・若手研究者を対象にした多数のスクール・実習・セミナー等を公募し実施しています。若手研究者間の自主的教育活動を奨励・支援しています。また、サイエンスカフェ<写真2>による研究成果の紹介も行っています。さらに企業人との懇談の場をもち、企業の協力や支援の獲得、キャリアパスの拡大を目指した活動を行っています。



<写真2>サイエンスカフェの様子

ネット図書館事業：上記活動において提供される講演や発表を録画し、動画と講演・発表資料を組み合わせたマルチメディアコンテンツをウェブ上に公開しています（<https://www.cps-jp.org/~mosir/pub/> <写真3>）。IT技術を活用し、国内外に分散する研究者の提供する情報を集積・公開し、分野俯瞰的・分野横断的な教育研究活動を奨励しています。



＜写真3＞ウェブによるセミナー動画の公開

3. CPSを支える若い人材

上に述べた活動を役割別に5つのコーディネーショングループ（CG）と呼ぶ集団（教育研究CG、基盤CG、国際連携CG、社会交流CG、将来構想CG）が分担していますが、その主体は、文科省の競争的資金グローバルCOEプログラム（後述）で雇用されている特命・特任准教授・助教・研究員・リサーチアシスタント（RA）たち若手研究者・大学院生であります。これらの若い人々が新鮮な発想をもってCPSの運営や活動に主体的に関わることはCPSの活力を維持・増進するのに必要であるだけでなく、若手人材の育成それ自体にとってもきわめて重要な要素となっています。CPSでは、若手の運営・活動への関与が同時に彼らの育成にもなっているのです。若い研究者がCPSに関わることで、自分の研究の推進だけでなく、研究環境の改善整備、周りの人々への協力、コミュニティへの奉仕といったことにも関心の持てる学問的にも人間的にも視野の広い人材が育つことを期待しています。



理学研究科教授・
惑星科学研究センター長

中川 義次

4. CPSへのご支援

CPSは理学研究科内に発足して4年目の今春、ポートアイランドに新築された統合研究拠点研究棟の3階全フロアが与えられ、入居することが出来ました。本稿の末尾になりましたが、福田学長はじめ、関係のみなさまに心よりお礼申し上げます次第であります。CPSは現在、文科省グローバルCOEプログラム「惑星科学国際教育研究拠点の構築」の実施拠点として活動し、運営経費はこのグローバルCOEプログラムの交付金でまかなわれています。グローバルCOEプログラムの採択、統合研究拠点研究棟への入居と今のところ幸せなスタートを切ったCPSではありますが、2年後にはグローバルCOEプログラムは終了し、その後のCPSの財政的見通しは実はまだ立っていません。私どもはCPSの継続にあらゆる努力を惜しまぬ覚悟ですが、同時に、みなさま方の幅広いご支援を今後ともお願いする次第であります。CPSを世界の惑星科学者のだれもが一度は訪れてみたいと思う研究センターに育て上げたいと願う次第であります。